

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 1科目選択で75分  
もしくは2科目4問選択で100分

## 解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)  
 難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)  
 設問数・難易度ともに変化がなかった。

## 出題の特徴や昨年との変更点

すべての問題が空所補充形式であり、昨年と異なり解答を描図させる設問はなかった。

## その他トピックス

新傾向を意識した会話文形式の出題があった。

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
〔Ⅰ〕	空所補充 (記述・マーク)	力学 (単振動)	物理	(i) は、ばね振り子の周期から重力加速度を求める問題。グラフから数値を適切に読み取ること。 (ii) は、糸でつながれた2物体のばね振り子を扱った問題。位置エネルギーの基準点に注意すること。	標準
〔Ⅱ〕	空所補充 (記述・マーク)	電磁気 (電流が作る磁場・電磁誘導)	物理	(i) は、電流が作る磁場の大きさと向きを問う問題。各電流が作る磁場を空間的に正しく捉えなければならぬ。 (ii) は、鉛直面内の回転導体棒による電磁誘導の問題。状況を正しく把握し、問題文の誘導に従って考えなければならぬ。	やや難
〔Ⅲ〕	空所補充 (記述・マーク)	熱 (気体の状態変化)	物理	(i) は、定積・定圧で状態変化させる基本的な問題であり確実に得点したい。 (ii) は、P-V グラフが負の傾きを持つ直線となる変化を扱った問題。誘導に従って考えていけばよい。	標準

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## &lt;学習対策&gt;

ほとんどの問題が基本的な内容を扱ったものであるため、教科書・参考書などで物理法則を正しく理解することに努め、入試問題集などで頻出問題に慣れておくことが大切である。